

「ASTERIA (アステリア)」が国内企業データ連携ソフト市場で 12年連続シェア No.1 を達成！

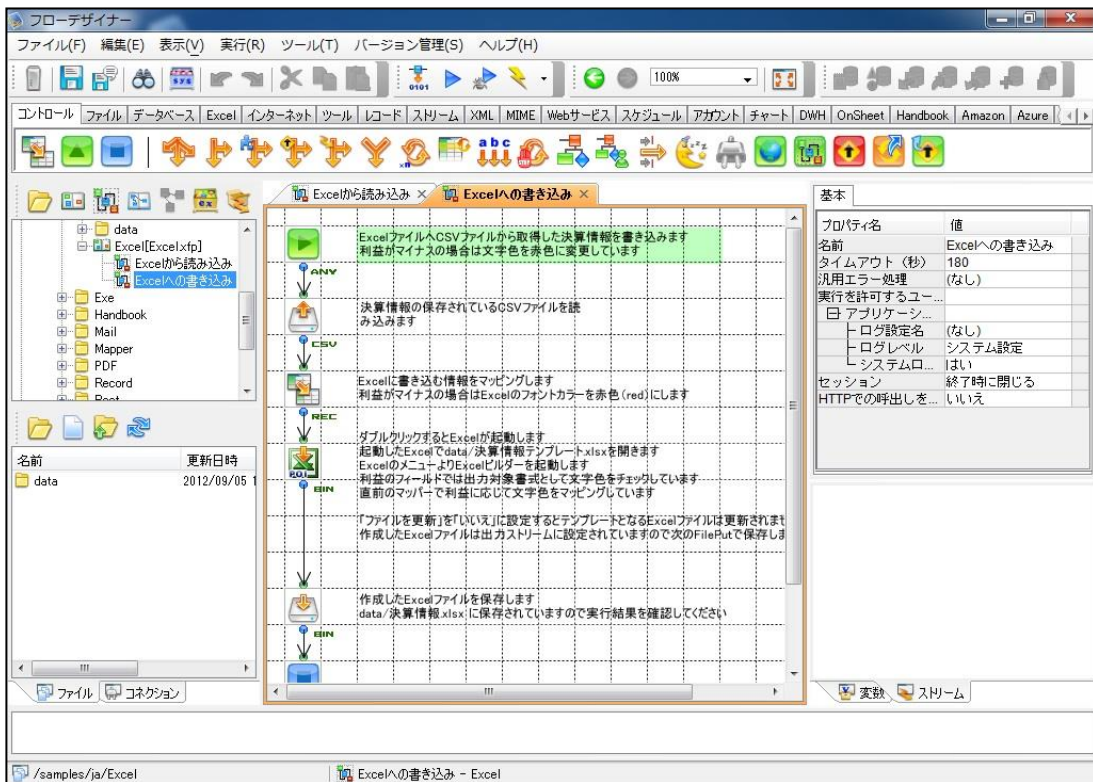
インフォテリア株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：平野洋一郎、証券コード：3853、以下、インフォテリア）は、民間調査会社の株式会社テクノ・システム・リサーチ（本社：東京都千代田区、代表取締役：藤田正雄、以下、テクノ・システム・リサーチ）の調査の結果、2017年における国内 EAI/ESB^{*}1 ソフト市場で主力製品「ASTERIA (アステリア)」が、12年連続シェア No.1 (出荷数量ベース) を達成したことを発表します。

■ テクノ・システム・リサーチによる調査概要

テクノ・システム・リサーチの「2018年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」によると、2017年の EAI/ESB 製品市場規模は約 150 億円で、数量ベースでは 2,231 サイトに対して出荷されました。こうした中、ASTERIA の出荷数量は 896 サイトとなり、市場シェア 40.2% (出荷数量ベース) を記録し、12年連続シェア No.1 を達成しました。この市場シェア率は 2 位以下の製品が有するシェアと倍以上の開きがあり、同分野の製品の中でも支持いただいていることの裏付けとなりました。



ASTERIA シリーズ主力製品 「ASTERIA WARP」 画面イメージ 当社独自のフローデザイナーがノンプログラミングでデータ連携を実現



※参考データ：EAI/ESB 市場規模推移／見通し

単位：数量（サイト数）、金額（百万円）

項目	2017年 [実績]	2018年 [見込]	2019年 [予想]	2020年 [予想]
数量 (前年比)	2,231 (104.7%)	2,330 (104.7%)	2,411 (103.5%)	2,505 (103.9%)
金額 (前年比)	15,004.0 (101.9%)	15,388.0 (102.6%)	15,570.0 (101.2%)	15,761.0 (101.2%)

(出典：テクノ・システム・リサーチ「2018年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」)

＜テクノ・システム・リサーチによる今後の市場展望＞

ユーザー企業のクラウドコンピューティングに対する拒否感が薄れ、利用が拡大する流れになっている。今後、さらにクラウドの利用が進んでいけば、社内システムとパブリッククラウドとの連携、パブリッククラウド間の連携へのニーズが高まっていくと予測している。また、社内システムとパブリッククラウドの連携では、システム間でAPI*2（Application Programming Interface）が完全に統一されていないため、EAI/EAB製品を利用することにより迅速な連携とメンテナンス性向上の効果が期待できる。

昨年度の調査において市場の拡大には新規ユーザー層の取り込みが必須であるとしたが、現在ニーズの高いクラウド間のシステム連携では従来のユーザー層とは異なる新規ユーザーの取り込みに繋がる可能性があり、さらなる市場の拡大に寄与する要因として期待できる。

海外では、SaaS間の連携、SaaSとIaaSの連携、SaaSとオンプレミスの連携といったニーズに応えるものとして、iPaaS（Integration Platform as a Service）の利用が拡大している。背景としては日本よりもSalesforceやServiceNowといったSaaSの利用が進んでいるためだが、日本でもSaaSの利用拡大が進む中、今後はアプリケーションデータ連携のニーズが高まっていくことが予想される。

■ 今後の ASTERIA ビジネスの展開

インフォテリアの ASTERIA ビジネスは順調な拡大を継続しており、現在の導入社数は 6,000 社を突破するとともに、企業データ連携市場（EAI/ESB）では 12 年連続シェア No.1 を継続し、業界のリーディングカンパニーとしての地位を更に強固なものにしています。今後も、ASTERIA WARP の多様なデータソースとの連携機能を駆使することで社内の情報資産の有効活用貢献し、新たなビジネスチャンスの獲得に貢献できるような IT ソリューションの構築に貢献してまいります。

■ 「ASTERIA シリーズ」について（Web サイト <https://www.infoteria.com/jp/asteria>）

「ASTERIA シリーズ」は、異なるコンピューターシステムのデータを、ノンプログラミングで連携できる ASTERIA WARP を主力製品とするミドルウェアです。メインフレームやクラウド上のサーバーから表計算ソフトまで、様々なシステム間の接続とデータの変換を行うロジックを複雑なプログラミングなしで行えることが評価されています。



■「インフォテリア株式会社」について（Web サイト <https://www.infoteria.com/>）

1998年に国内初のXML 専門ソフトウェア会社として設立されたインフォテリア株式会社は、企業内の多種多様なコンピューターやデバイスの間を接続するソフトウェアやサービスを開発・販売しています。主力製品の「ASTERIA」は、異なるコンピューターシステムのデータをプログラミングなしで連携できるソフトウェアで、大企業、中堅企業を中心に6,900社（2018年6月末現在）の企業に導入されています。また、「Handbook」は、営業資料や商品カタログ、会議資料などあらゆる電子ファイルをスマートフォンやタブレットで持ち運べるサービスのスタンダードとして、1,427件（2018年6月末現在）の企業や公共機関で採用されています。

※1：企業データ連携=Enterprise Application Integration / Enterprise Service Bus の略

※2：Application Programming Interface の略でソフトウェアコンポーネントが互いにやりとりする際に使用するインタフェースの仕様。

<プレスリリース 掲載 URL>

https://www.infoteria.com/jp/news/press/2018/08/22_01.php

【プレスリリースに関するお問い合わせ先（報道機関窓口）】

インフォテリア株式会社 広報・IR 室 長沼史宏

TEL:03-5718-1297 / FAX:03-5718-1261 / E-mail: press@infoteria.com

【製品に関するお問い合わせ先】

インフォテリア株式会社 エンタープライズ本部 営業推進部長：東出武也

TEL:03-5718-1250 / FAX:03-5718-1261 / E-mail: pm@infoteria.com

インフォテリア、ASTERIA、Handbook はインフォテリア株式会社の登録商標です。
本文中の商品名は、各社の商標または登録商標です。